

日本の
ひなた
宮崎県

今月の主要経済指標

目次

今月の経済関係統計資料

1 宮崎県景気動向指数	1
2 宮崎県の鉱工業指数	2
3 みやざきの賃金・労働時間・雇用の動き	3
4 宮崎市の消費者物価指数	4
5 データ編	5

【参考】

・ 「月例経済報告」抜粋	8
・ 「宮崎県金融経済概況」抜粋	9

平成29年6月



宮崎県総合政策部統計調査課

1 宮崎県景気動向指数（平成29年3月分）

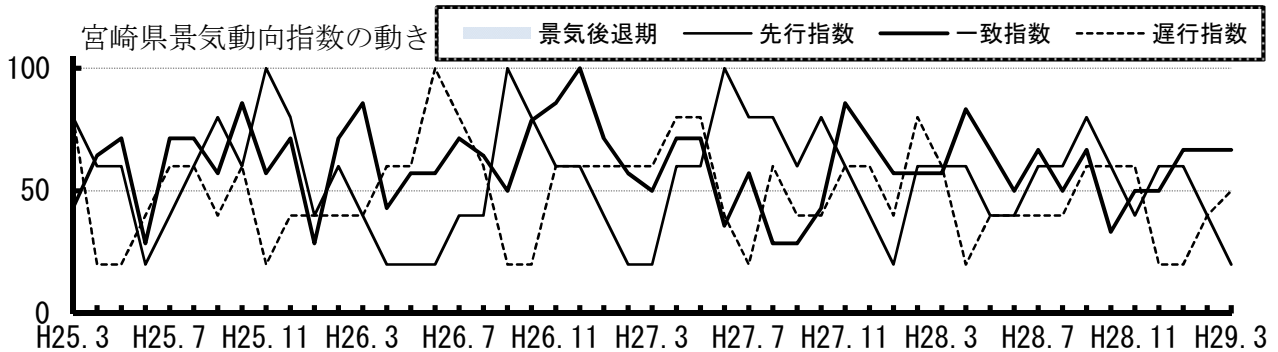
(1) 今月の動き

平成29年3月の本県のDIは、

先行指数は 20.0%となり、2か月連続で 50.0%を下回った。

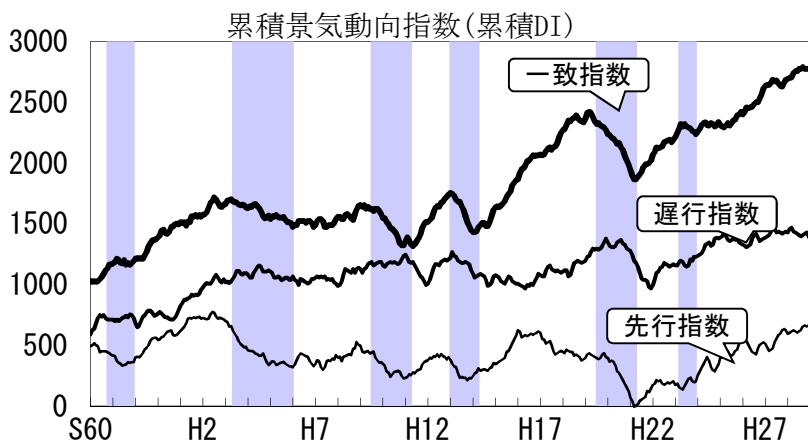
一致指数は 66.7%となり、3か月連続で 50.0%を上回った。

遅行指数は 50.0%となり、3か月連続で 50.0%を下回った後、保合となった。



	採用 指標数	拡張 指標数	プラスの指標（拡張指標）	マイナスの指標
先行系列	5	1	鉱工業在庫率指数（逆）	新規求人数（パート含む）、新車登録台数（乗用車）、新設住宅着工戸数、ホテル・旅館宿泊客数
一致系列	6	4	有効求人倍率、百貨店・スーパー販売額（実質）、鉱工業出荷指数雇用保険受給者実人数（逆）	鉱工業生産指数、輸入通関実績（実質）
遅行系列	4	2	鉱工業在庫指数、資本財出荷指数	家計消費支出（勤労者世帯）、消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）

(2) 累積景気動向指数



シャドウ部分：景気後退期

- 見やすくするため、先行指数には 500、一致指数には1000、遅行指数には 600をそれぞれ加算している。

(参考)

景気動向指数：景気が上向きか、下向きかを総合的に示す指数である。50%を上回って推移しているときは景気拡張局面、下回って推移しているときは景気後退局面と判断される。

累積景気動向指数：各指数から景気判断の基準となる50を引くことで、景気の拡張・後退の動向だけを確認することができる指数である。

2 宮崎県の鉱工業指数（平成29年3月分）（平成22年＝100）

平成29年3月の鉱工業指数（季節調整済指数） 注

	宮 崎 県		全国（参考）		九州（参考）	
	指数	前月比(%)	指数	前月比(%)	指数	前月比(%)
生産	95.3	▲ 1.7	99.8	▲ 1.9	109.4	▲ 1.4
出荷	102.4	▲ 0.9	98.4	▲ 0.8	113.4	2.7
在庫	114.6	1.9	109.7	1.5	114.5	2.5

注 季節調整済指数とは、1年を通してほぼ規則的に繰り返す季節的な変動を除去した指数

【生産】

95.3（前月比1.7低下） ～5か月連続の低下～

上昇に寄与した業種（6業種）			低下に寄与した業種（6業種）		
順位	主な業種	前月比	順位	主な業種	前月比
1	食料品工業	5.0	1	電子部品・デバイス工業	▲ 16.9
2	鉄鋼・金属製品工業	17.9	2	はん用・生産用・業務用機械工業	▲ 8.9
3	繊維工業	3.6	3	パルプ・紙・紙加工品工業	▲ 9.2

【出荷】

102.4（前月比0.9低下） ～2か月連続の低下～

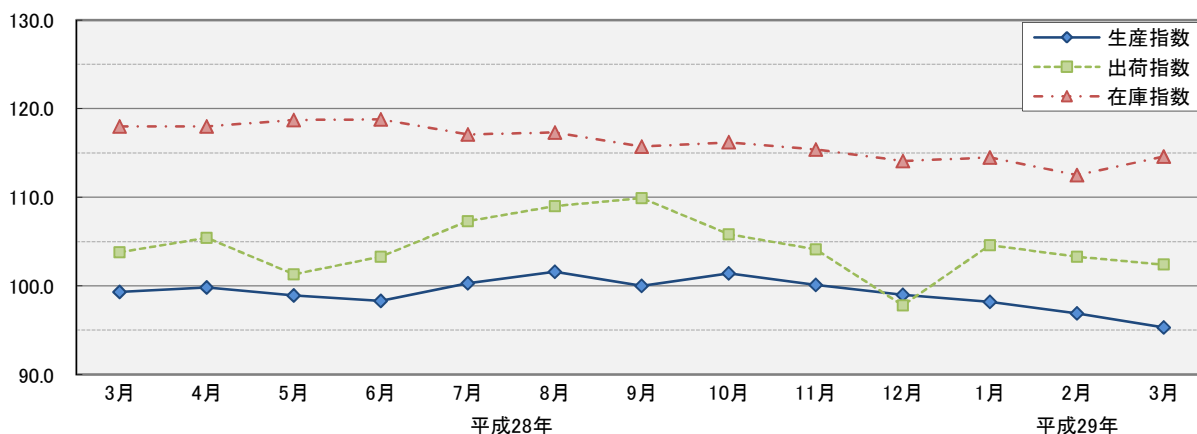
上昇に寄与した業種（6業種）			低下に寄与した業種（6業種）		
順位	主な業種	前月比	順位	主な業種	前月比
1	電気・情報通信機械その他工業	2.9	1	電子部品・デバイス工業	▲ 16.0
2	化学工業	3.1	2	食料品工業	▲ 3.3
3	窯業・土石製品工業	12.5	3	プラスチック製品工業	▲ 26.4

【在庫】

114.6（前月比1.9上昇） ～2か月ぶりの上昇～

上昇に寄与した業種（4業種）			低下に寄与した業種（4業種）		
順位	主な業種	前月比	順位	主な業種	前月比
1	電子部品・デバイス工業	16.0	1	繊維工業	▲ 5.6
2	食料品工業	1.0	2	はん用・生産用・業務用機械工業	▲ 1.6
3	プラスチック製品工業	3.4	3	化学工業	▲ 0.6

宮崎県の生産・出荷・在庫指数の推移（季節調整済指数）（平成22年＝100）



鉱工業指数は、本県の鉱工業の動向を総合的に把握することを目的に、生産・出荷を108品目、在庫を69品目選定し、それぞれ指数化したものです
平成25年12月に平成22年基準に切り替えました。

3 みやざきの賃金・労働時間・雇用の動き（平成29年3月分）

宮崎県における平成29年3月の賃金、労働時間及び雇用に関する調査結果（調査産業計）は次のとおりです。

【調査結果のポイント】

- ・ きまって支給する給与は 221,784円で、前年同月比 2.1%減
- ・ 総実労働時間は 150.0時間で、前年同月比 3.9%減
- ・ 常用労働者数は 311,127人で、前年同月比 0.8%減

※ 増減比は平成27年平均を 100とする指数で比較。

(1) 賃 金

「1人平均月間現金給与総額」は 232,162円で、前年同月比 2.6%減であった。

このうち、「所定内給与」は 206,897円、「所定内給与」に超過労働給与を加えた「きまって支給する給与」は 221,784円で、前年同月比 2.1%減であった。

(2) 労働時間

「1人平均月間総実労働時間」は 150.0時間で、前年同月比 3.9%減であった。

このうち、「所定内労働時間」は 139.5時間、「所定外労働時間」は10.5時間であった。

また、「1人平均月間出勤日数」は19.5日で、前年同月差 0.7日減であった。

(3) 雇 用

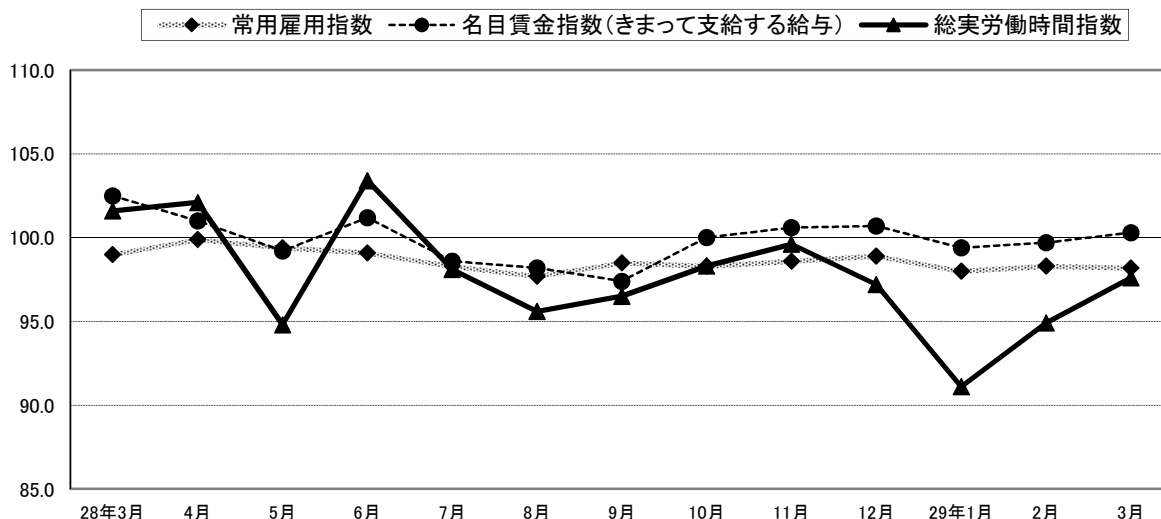
「常用労働者数」は 311,127人で、前年同月比 0.8%減であった。

《参考》

	宮 崎		全 国	
	事業規模5人以上	前年同月比 (指数又は日での比)	事業規模5人以上	前年同月比 (指数又は日での比)
1 賃 金 (名目)				
一人平均現金給与総額	232,162円	▲2.6%	278,677円	0.0%
所定内給与	206,897円	▲1.6%	240,840円	▲0.1%
きまって支給する給与	221,784円	▲2.1%	260,744円	▲0.1%
2 労働時間				
総実労働時間数	150.0時間	▲3.9%	144.7時間	▲1.7%
所定内労働時間数	139.5時間	▲3.9%	133.3時間	▲1.9%
所定外労働時間数	10.5時間	▲4.2%	11.4時間	1.5%
出勤日数	19.5日	▲0.7日	18.6日	▲0.4日
3 雇 用				
常用労働者数	311,127人	▲0.8%	49,025千人	2.4%

事業所規模5人以上：調査産業計

(平成27年=100)



4 宮崎市の消費者物価指数（平成29年3月調査分）

総合指数 100.2 （平成27年=100） 前月比（-）0.5% 前年同月比（+）0.5%

(1) 概況

平成29年3月の宮崎市の消費者物価指数は、平成27年を100とした総合指数で100.2となり、前月比は0.5%の下落、前年同月比は0.5%の上昇となった。

総合指数の動きを前年同月比で見ると、平成28年11月は1.0%の上昇、12月は0.7%の上昇、1月は1.1%の上昇、平成29年2月は1.2%の上昇、3月は0.5%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は100.2となり、前月比は0.2%の下落、前年同月比は0.9%の上昇となった。

食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は100.0となり、前月比は0.3%の下落、前年同月比は0.2%の下落となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は100.6となり、前月比は0.4%の下落、前年同月比は0.4%の上昇となった。

宮崎市の10大費目別指数、前月比、前年同月比及び寄与度（平成29年3月）

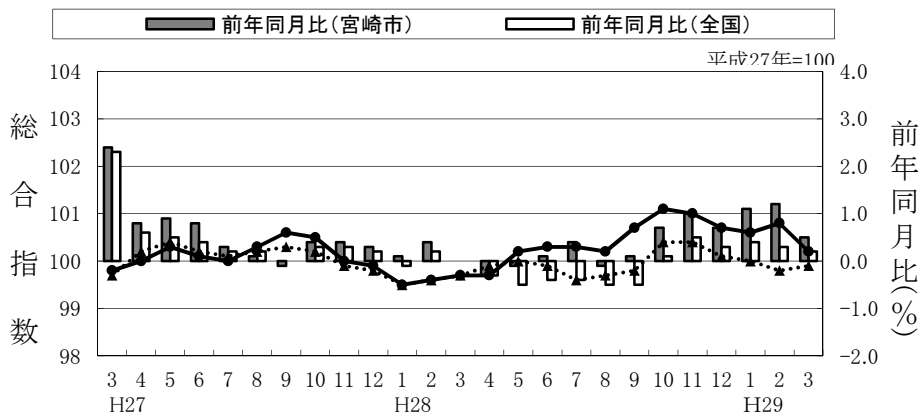
費目	指数	前月比		前年同月比	
		変化率(%)	寄与度	変化率(%)	寄与度
総合	100.2	-0.5	-	0.5	-
食料	102.1	-1.7	-0.46	0.5	0.15
住居	100.4	-0.1	-0.01	0.0	0.00
光熱・水道	98.6	0.6	0.04	2.1	0.14
家具・家事用品	100.1	-1.2	-0.05	2.3	0.08
被服及び履物	102.7	1.7	0.06	0.8	0.03
保健医療	99.9	0.0	0.00	0.0	0.00
交通・通信	97.5	-0.1	-0.02	1.1	0.18
教育	102.2	0.0	0.00	1.7	0.06
教養娯楽	98.5	-1.2	-0.11	-1.9	-0.18
諸雑費	101.3	0.5	0.03	0.7	0.05

(2) 総合指数の前月比に影響を与えた費目及び寄与度等

	(10大費目)	(中分類、前月比、寄与度)		(品目)
		前月比(%)	寄与度	
上昇	被服及び履物	衣料	7.8 0.11	ワンピース（春夏物）
	光熱・水道	電気代	1.0 0.03	
下落	食料	肉類	-7.1 -0.22	牛肉（国産品）
	教養娯楽	教養娯楽サービス	-2.4 -0.14	ゴルフプレー料金

(3) 総合指数の前年同月比に影響を与えた費目及び寄与度等

	(10大費目)	(中分類、前年同月比、寄与度)		(品目)
		前年同月比(%)	寄与度	
上昇	交通・通信	自動車等関係費	5.5 0.55	ガソリン
	食料	肉類	7.5 0.20	牛肉（国産品）
下落	教養娯楽	教養娯楽サービス	-3.0 -0.17	ゴルフプレー料金



(データ編)

— 全国 —

年 月	雇用・労働				実質賃金指数		所定外労働 時間指数 (製造業)	完全 失業率 (季節調整済)
	有効 求人倍率 (季節調整済)	新規求職 申込件数 (原数値)	新規 求人数 (原数値)	常 雇用指数 27年=100	現金給与 総額 27年=100	きまって支 給する給与 27年=100		
	倍	千件	千人				27年=100	%
24年	0.80	6,920	8,845	95.8	104.8	105.7	90.3	4.4
25	0.93	6,510	9,531	96.6	103.9	104.2	94.1	4.0
26	1.09	6,027	10,003	98.0	101.0	100.8	100.5	3.6
27	1.20	5,739	10,357	100.0	100.0	100.0	100.0	3.4
28	1.36	5,369	10,928	102.1	100.7	100.3	99.3	3.1
28年 3月	1.31	509	921	100.2	89.2	101.0	101.9	3.2
4	1.33	582	895	101.6	87.5	101.6	100.7	3.2
5	1.35	466	853	101.9	85.6	99.6	90.5	3.2
6	1.36	444	907	102.4	137.7	100.6	98.0	3.1
7	1.37	401	891	102.6	119.4	100.7	100.7	3.0
8	1.37	413	888	102.7	87.1	100.0	95.1	3.1
9	1.38	432	944	102.7	84.7	100.2	100.2	3.0
10	1.40	424	956	102.9	84.7	99.9	101.9	3.0
11	1.41	382	893	103.2	87.5	99.9	105.9	3.1
12	1.43	336	842	103.4	174.1	100.2	105.9	3.1
29年 1	1.43	475	1,007	103.2	86.1	99.3	94.3	3.0
2	1.43	465	1,014	103.0	84.0	100.0	104.5	2.8
3	1.45	491	981	102.6	88.9	100.6	105.1	2.8
資料	厚生労働省 「一般職業紹介状況」 ※ パートタイムを含む。			厚生労働省 「毎月勤労統計調査」 注) 事業所規模5人以上			総務省 「労働力 調査」 注) 30人以上	

[]は岩手県、宮城県及び福島県を除く全国結果。

— 宮崎県 —

年 月	雇用・労働				実質賃金指数		所定外労働 時間指数 (製造業)	完全 失業率 (季節調整済)
	有効 求人倍率 (季節調整済)	新規求職 申込件数 (原数値)	新規 求人数 (原数値)	常 雇用指数 27年=100	現金給与 総額 27年=100	きまって支 給する給与 27年=100		
	倍	件	人				27年=100	%
24年	0.69	80,102	86,294	102.5	98.7	100.6	86.3	…
25	0.77	75,398	89,534	102.8	99.5	101.0	90.7	…
26	0.93	70,831	99,592	102.6	100.5	100.9	100.8	…
27	1.03	66,552	102,272	100.0	100.0	100.0	100.0	…
28	1.22	63,453	112,443	98.8	99.1	99.3	100.4	…
28年 3月	1.15	5,862	9,389	99.0	91.0	102.7	96.4	—
4	1.19	6,956	8,772	99.9	86.2	101.3	101.8	—
5	1.22	5,727	9,015	99.4	85.1	98.9	91.1	—
6	1.24	5,375	9,391	99.1	136.1	100.8	99.8	—
7	1.24	4,890	8,867	98.3	110.4	98.2	98.4	—
8	1.26	5,097	10,053	97.7	86.4	98.0	103.8	—
9	1.26	5,109	9,987	98.5	81.7	96.6	102.4	—
10	1.26	4,991	9,650	98.3	83.4	98.7	105.1	—
11	1.27	4,315	9,913	98.6	88.0	99.5	113.1	—
12	1.28	3,564	8,266	98.9	170.9	99.9	109.7	—
29年 1	1.33	5,811	11,100	98.0	84.1	98.6	99.3	—
2	1.33	5,452	10,674	98.3	83.8	98.8	108.0	—
3	1.34	5,695	10,201	98.2	88.0	99.9	115.3	—
資料	厚生労働省宮崎労働局 「労働市場月報」 ※ パートタイムを含む。			県統計調査課 「みやざきの賃金・労働時間・雇用の動き」 注) 事業所規模5人以上			総務省 ※ モデル 推計値 注) 30人以上	

注 1 この統計表の符号の用法は、次のとおりです。

「—」皆無または該当数値なし、「…」数値未詳または不明、「p」暫定(速報)数値、「r」訂正(確報)数値。

2 宮崎県の完全失業率について、労働力調査では都道府県別に表章するように標本設計を行っておらず(北海道及び沖縄県を除く)、標本規模も小さいことなどから、全国の結果に比べ標本誤差が大きく、結果の利用に当たっては注意を要します。

— 全国 —

年 月	消費				総合指標		
	百貨店・スーパー販売額	主要ホテル・旅館宿泊客数	消費者物価指数	家計調査消費支出(一世帯当たり)	景気動向指数(DI)		
	億円		27年=100	円	先行指数	一致指数	遅行指数
24年	188,471	—	96.2	286,169	—	—	—
25	190,258	—	96.6	290,454	—	—	—
26	194,272	—	99.2	291,194	—	—	—
27	196,733	—	100.0	287,373	—	—	—
28	195,948	—	99.9	282,188	—	—	—
28年 3月	16,463	—	99.7	300,889	40.9	44.4	66.7
4	15,456	—	99.9	298,520	63.6	44.4	50.0
5	15,978	—	100.0	281,827	72.7	50.0	33.3
6	15,675	—	99.9	261,452	63.6	66.7	33.3
7	17,210	—	99.6	278,067	50.0	66.7	27.8
8	15,541	—	99.7	276,338	63.6	88.9	66.7
9	14,705	—	99.8	267,119	59.1	77.8	61.1
10	15,966	—	100.4	281,961	81.8	94.4	77.8
11	16,479	—	100.4	270,848	72.7	100.0	77.8
12	20,676	—	100.1	318,488	81.8	88.9	61.1
29年 1	16,743	—	100.0	279,249	80.0	37.5	81.3
2	14,493	—	99.8	260,644	50.0	62.5	75.0
3	16,312	—	99.9	297,942	77.8	42.9	80.0
資料	経済産業省「商業動態統計」		総務省「消費者物価指数」	総務省「家計調査」	内閣府経済社会総合研究所「景気動向指数」		

— 宮崎県 —

年 月	消費				総合指標		
	百貨店・スーパー販売額	主要ホテル・旅館宿泊客数	消費者物価指数(宮崎市)	家計調査消費支出(一世帯当たり)	景気動向指数(DI)		
	百万円	人	27年=100	円	先行指数	一致指数	遅行指数
24年	75,324	1,022,941	96.3	262,695	—	—	—
25	74,744	1,068,697	96.5	263,806	—	—	—
26	73,975	1,047,565	99.1	250,489	—	—	—
27	74,458	1,146,449	100.0	256,959	—	—	—
28	71,989	1,171,545	100.3	276,311	—	—	—
28年 3月	5,756	108,089	99.7	337,762	40.0	57.1	40.0
4	5,503	73,311	99.7	296,790	60.0	66.7	40.0
5	6,029	79,094	100.2	279,045	40.0	58.3	40.0
6	5,524	72,379	100.3	284,482	40.0	66.7	40.0
7	6,565	95,579	100.3	276,215	60.0	50.0	40.0
8	6,007	131,247	100.2	249,709	60.0	50.0	40.0
9	5,192	99,752	100.7	253,982	80.0	66.7	60.0
10	5,826	100,243	101.1	251,272	40.0	33.3	60.0
11	6,092	103,391	101.0	235,173	40.0	33.3	50.0
12	8,386	107,096	100.7	320,999	60.0	50.0	20.0
29年 1	5,997	85,207	100.6	320,089	60.0	66.7	20.0
2	5,174	107,150	100.8	225,094	40.0	66.7	40.0
3	5,916	113,429	100.2	275,803	20.0	66.7	50.0
資料	経済産業省「商業動態統計」	県観光推進課	県統計調査課	総務省「家計調査」※ 宮崎市	県統計調査課「宮崎県景気動向指数」		

3 主要ホテル・旅館宿泊客数は、平成27年8月分から調査対象を一部変更したため、平成24年1月に遡って改定しました。そのため、平成23年以前と平成24年以降の数値の単純比較ができないことに注意が必要です。

4 家計調査消費支出(一世帯当たり)は、二人以上の世帯です。

5 宮崎県景気動向指数は、採用系列の入替を行ったため、過去に遡って数値を改訂しています。

6 平成27年7月分より、統計の名称が「大型小売店販売動向」から「百貨店・スーパー販売動向」に変更されました。

— 全国 —

年 月		生産						投資		
		鉱工業生産指数		鉱工業出荷指数		鉱工業在庫指数		新設住宅 着工戸数	着工建築物	
		原指数	季節調整 済指数	原指数	季節調整 済指数	原指数	季節調整 済指数		床面積	工事費 予定額
22年=100		22年=100		22年=100		22年=100		戸	千㎡	億円
24年		97.8	—	97.5	—	110.5	—	882,797	132,609	220,260
25		97.0	—	96.9	—	105.7	—	980,025	147,679	254,357
26		99.0	—	98.2	—	112.3	—	892,261	134,021	246,060
27		97.8	—	96.9	—	112.3	—	909,299	129,624	251,392
28		97.6	—	96.1	—	107.1	—	967,705	133,012	263,265
28年	3月	108.2	96.4	110.1	95.1	106.1	114.2	75,744	10,495	20,763
	4	92.9	96.8	90.0	95.4	106.9	112.6	82,398	10,845	21,548
	5	89.3	95.6	86.6	94.7	112.0	112.8	78,728	12,006	23,519
	6	100.6	97.0	98.3	95.7	112.7	112.4	85,953	12,041	24,217
	7	98.7	97.0	96.4	96.0	113.0	110.5	85,208	11,071	20,694
	8	92.5	98.3	89.7	96.2	114.4	110.5	82,242	11,877	23,233
	9	103.5	98.6	103.5	96.8	109.7	109.9	85,622	11,765	23,780
	10	98.9	98.9	97.1	97.9	110.0	108.5	87,707	11,387	22,441
	11	101.7	99.9	100.7	98.9	109.1	106.6	85,051	11,327	21,945
	12	100.8	100.6	100.6	98.9	106.4	107.3	78,406	10,725	22,066
29年	1	93.1	98.5	92.0	97.8	110.4	107.4	76,491	11,071	25,163
	2	98.9	101.7	97.5	99.2	109.3	108.1	70,912	10,339	22,324
	3	r 112.0	r 99.8	r 113.9	r 98.4	r 101.9	r 109.7	75,887	9,782	19,295
資料		経済産業省 「生産・出荷・在庫指数」						国土交通省 「建築着工統計」		

— 宮崎県 —

年 月		生産						投資		
		鉱工業生産指数		鉱工業出荷指数		鉱工業在庫指数		新設住宅 着工戸数	着工建築物	
		原指数	季節調整 済指数	原指数	季節調整 済指数	原指数	季節調整 済指数		床面積	工事費 予定額
22年=100		22年=100		22年=100		22年=100		戸	㎡	千万円
24年		98.2	—	102.8	—	112.4	—	6,754	1,064,864	13,785
25		98.2	—	105.4	—	109.0	—	7,869	1,283,389	17,677
26		102.0	—	104.9	—	116.2	—	6,440	1,096,387	15,339
27		101.1	—	105.0	—	122.8	—	6,443	1,040,146	15,430
28		100.0	—	105.3	—	117.1	—	7,337	1,107,113	17,158
28年	3月	105.7	99.3	109.7	103.8	118.6	118.0	631	74,809	1,118
	4	100.8	99.8	104.6	105.4	117.7	118.0	708	75,738	1,145
	5	93.9	98.9	90.7	101.3	119.6	118.7	594	97,011	1,553
	6	97.2	98.3	100.7	103.3	118.4	118.8	503	85,038	1,126
	7	96.5	100.3	106.0	107.3	115.7	117.1	560	97,134	1,476
	8	96.9	101.6	103.8	109.0	116.2	117.3	724	89,193	1,409
	9	104.1	100.0	111.9	109.9	115.5	115.7	600	93,296	1,461
	10	108.2	101.4	109.5	105.8	118.2	116.2	604	135,651	2,314
	11	103.3	100.1	109.2	104.1	116.5	115.4	666	90,909	1,192
	12	102.2	99.0	115.1	97.8	110.7	114.1	758	110,326	1,512
29年	1	91.0	98.2	94.4	104.6	115.2	114.5	413	61,006	914
	2	93.3	96.9	98.4	103.3	113.9	112.5	616	82,445	1,202
	3	101.4	95.3	108.3	102.4	115.2	114.6	496	65,730	904
資料		県統計調査課 「宮崎県鉱工業指数月報」						国土交通省 「建築着工統計」		

*** 参考資料**

「月例経済報告」抜粋（平成29年5月24日：内閣府）

【基調判断】

4 月月例	5 月月例
<p>景気は、一部に改善の遅れもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人消費は、総じてみれば持ち直しの動きが続いている。 ・設備投資は、持ち直しの動きがみられる。 ・輸出は、持ち直している。 ・生産は、持ち直している。 ・企業収益は、改善している。企業の業況判断は、改善している。 ・雇用情勢は、改善している。 ・消費者物価は、横ばいとなっている。 <p>先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。</p>	<p>景気は、一部に改善の遅れもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人消費は、総じてみれば持ち直しの動きが続いている。 ・設備投資は、持ち直しの動きがみられる。 ・輸出は、持ち直している。 ・生産は、持ち直している。 ・企業収益は、改善している。企業の業況判断は、改善している。 ・雇用情勢は、改善している。 ・消費者物価は、横ばいとなっている。 <p>先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。</p>

【各論】

	4 月月例	5 月月例
個人消費	総じてみれば持ち直しの動きが続いている。	総じてみれば持ち直しの動きが続いている。
設備投資	持ち直しの動きがみられる。	持ち直しの動きがみられる。
住宅建設	弱含んでいる。	弱含んでいる。
公共投資	底堅い動きとなっている。	底堅い動きとなっている。
輸出	持ち直している。	持ち直している。
輸入	持ち直しの動きが見られる。	持ち直しの動きが見られる。
貿易・サービス収支	黒字は、減少傾向にある。	黒字は、減少傾向にある。
生産	持ち直している。	持ち直している。
企業収益	改善している。	改善している。
業況判断	改善している。	改善している。
倒産件数	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。
雇用情勢	改善している。	改善している。
国内企業物価	緩やかに上昇している。	緩やかに上昇している。
消費者物価	横ばいとなっている。	横ばいとなっている。
海外経済	世界の景気は、緩やかに回復している。先行きについては、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、アメリカの金融政策正常化の影響、中国を始めアジア新興国等の経済の先行き、政策に関する不確実性による影響、金融資本市場の変動の影響等について留意する必要がある。	世界の景気は、緩やかに回復している。先行きについては、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、アメリカの金融政策正常化の影響、中国を始めアジア新興国等の経済の先行き、政策に関する不確実性による影響、金融資本市場の変動の影響等について留意する必要がある。

(注) 下線部は、先月から変更した部分。

* 参考資料

「宮崎県金融経済概況」抜粋（平成29年5月10日：日本銀行宮崎事務所）

この公表資料は当事務所ホームページに掲載しています。

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/miyazaki/>

2017年5月10日

日本銀行宮崎事務所

日本銀行鹿児島支店

宮崎県金融経済概況

【概要】

宮崎県の景気は、持ち直しの動きが続いている。

すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、一部に弱い動きがみられるものの、底堅く推移している。観光は、緩やかに持ち直している。住宅投資は、横ばい圏内の動きとなっている。公共投資は、持ち直しを続けている。

生産は、横ばい圏内で推移している。

企業部門の動向を短観（3月＜鹿児島・宮崎両県集計分＞）でみると、景況感は、良好な状態を維持している。設備投資は、前向きなスタンスが維持されている。また、人手不足感は引き続き強い。

こうした企業動向を反映して、雇用環境は改善している。

【各論】

1. 個人消費

百貨店・スーパー販売額と家電販売額は、前年を上回った。乗用車新車登録台数（含む軽自動車）は、前年を上回って推移している。

2. 観光

主要ホテル・旅館宿泊客数は前年を上回った一方、主要観光施設入場者数は前年を下回って推移している。

3. 公共投資

公共工事請負金額は、前年を下回った。

4. 住宅投資

新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲のいずれも前年を下回った。

5. 生産

鉱工業生産指数(季節調整済)は、食料品、鉄鋼・金属製品を中心に前月を下回った。

6. 雇用環境

求人数は増加基調、求職者数は減少基調を続けており、有効求人倍率(季節調整済)は、高水準で推移している。

現金給与総額は、前年を上回って推移している。

常用労働者数は、前年を下回って推移している。

7. 物価

消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)は、前年を上回って推移している。

8. 金融面

預金、貸出金とも、前年を上回って推移している。

貸出約定平均金利は、緩やかな低下が続いている。

企業倒産件数は、低水準で推移している。

以 上